

登録コード	UAA21500	開講年度	2026			
授業題目	芸術コミュニケーション総合演習				担当教員	金井 直
					副担当	濱崎 友絵
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・1時限	
				授業形態	演習	
信大コンピテンシー 該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学					
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。				芸術についてのより深い素養と幅広い理解を基盤として、その専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自の理論構築や仮説検証ができるようになる。	
(2)授業の概要	芸術コミュニケーション総合演習 得る知見を踏まえつつ、外国語文献の精読をさらに集中的におこない、芸術文化の諸相を、通時的また共時的に、個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする。音楽については、グローバリゼーションやローカリゼーション、ディアスポラなどのトピックがより個別的に扱われる。美術については、とくに20世紀以後の彫刻・立体作品の制作と受容に着目する。					
(3)授業計画	第1回：ガイダンス（個別研究のめざすもの）金井 第2回：文献精読（事例検証、音楽－グローバリゼーション／ローカリゼーション）濱崎 第3回：文献精読（事例検証、音楽－ディアスポラ）濱崎 第4回：文献精読（事例検証、音楽－地域と文化）濱崎 第5回：文献精読（事例検証、美術－創作）金井 第6回：文献精読（事例検証、美術－受容）金井 第7回：文献精読（事例検証、美術－地域）金井 第8回：文献精読（事例検証、他の芸術実践－創作）金井 第9回：文献精読（事例検証、他の芸術実践－受容）金井 第10回：文献精読（事例検証、他の芸術実践－地域）金井 第11回：文献精読（事例検証、芸術ジャンルの交差）金井 第12回：文献精読（事例検証、創作と受容の境域）濱崎 第13回：文献精読（事例検証、グローバルな知と実践）濱崎 第14回：文献精読（事例検証、ローカルな知と実践）濱崎 第15回：総括（芸術コミュニケーション論の展望）濱崎 期末試験の有無 なし					
(4)成績評価の方法	以下を総合して判定する。 各回の授業時の発表（レジュメ含む）30%、ディスカッション30%、最終レポート40% 評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。					
(5)成績評価の基準	【卓越している】芸術コミュニケーション総合演習（理論と歴史）の学修成果を基盤に、文献を精読し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】芸術コミュニケーション総合演習（理論と歴史）の学修成果を基盤に、文献を精読し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、非常に高い水準にある。 【やや上にある】芸術コミュニケーション総合演習（理論と歴史）の学修成果を基盤に、文献を精読し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、高い水準にある。 【その水準にある】芸術コミュニケーション総合演習（理論と歴史）の学修成果を基盤に、文献を精読し、芸術文化の諸相を検討し、その現状と課題を分析する力において、一定水準にある。					
(6)事前事後学習の内容	事前学習として、外国語資料の精読と発表資料作成が不可欠である。事後学習は授業ごとの復習。その集約にもとづく最終レポートを求める。					
(7)履修上の注意	講読を軸とする授業につき、じゅうぶんな予習復習を期待する。 受講者個々の発表のみならず、他の受講者の発表に対するコメントも重視する。 自主的に鑑賞経験を積み上げ、多様な芸術表現についての知識と関心を高めておくこと。					
(8)質問、相談への対応	まず以下のアドレスにメールにて問い合わせること。 kanait@shinshu-u.ac.jp					
【教科書】	なし。ただし各回の内容に合わせて独自に作成した資料をそのつど提供する。					
【参考書】	Jerrold Levinson, The Oxford Handbook of Aesthetics, Oxford Univ., 2005. ほか。					